



村章



平成3年3月発行

(恩納村の人口)  
 平成3年1月末現在  
 人口 8,948(+7)  
 男 4,624(+3)  
 女 4,324(+4)  
 世帯数 2,681(-4)  
 ( ) 内は前月比



安富祖公民館



泉川良吉

昭和41年  
 29代目区長 泉川良吉  
 30代目区長 当山忠松  
 区民数  
 男性 276名  
 女性 351名  
 合計 627名

平成3年  
 37代目区長 当山佳昭  
 区民数  
 男性 323名  
 女性 318名  
 合計 641名

なつかしき日の公民館

⑤

安富祖



当山佳昭



# 戦没者等の遺族に対する特別弔慰金の支給について (お知らせ)

昭和40年に創設された制度で、戦没者等の遺族に対し、国としてあらためて弔慰の意を表するために支給されるものです。

平成元年度に制度の改正が行われ、昭和60年4月1日から平成元年3月31日までに、公務扶助料、遺族年金等を受給していた遺族（戦没者等の妻、父母等）が失権した場合に残された遺族に特別弔慰金として額面18万円、6年償還、無利子の国籍が支給されます。

なお、第四回特別弔慰金（額面30万円、10年償還）の支給の対象となった遺族は対象となりません。

## 支給の対象者

特別弔慰金をうけることができるのは、主として次に記載された戦没者死亡当時の遺族のうち、次の順序に従って最も順位が先の人1人です。

1. 平成元年4月1日までに弔慰金（遺族国庫債券）を受けた人
2. 戦没者の子
3. 戦没者と生計を共にしていた①父母、②孫、③祖父母、④兄弟姉妹  
(婚姻、養子縁組により平成元年4月1日現在氏が変わっている人は該当しません。)
4. 戦没者と生計関係がなかったか、又は上記3に該当しなかった①父母、②孫、③祖父母、④兄弟姉妹。
5. 上記3及び4以外の三親等内親族  
(戦没者死亡まで引き続いて1年以上生計していた人に限ります。)

## 請求の期限

請求の期限は、平成4年6月27日です。期限までに請求しませんでしたと受給できなくなりますからご注意ください。

## 受付窓口

恩納村役場住民課援護担当が受付窓口になっております。  
請求用紙は受付窓口にて備えてありますが、他に戸籍抄本等も必要です。  
なお、支給条件、支給順位など詳しいことは下記にご相談ください。

恩納村役場住民課援護担当 電話 966-8001

# 交通事故防止三区民総決起大会宣言

平成2年中、私達の地域で交通事故死亡事故が3件、また、今年元日に若者による交通重傷事故が発生した。

特に年末・年始の事故は、マナーの普及高揚の必要性を痛感する。

私達は、二度とこのような悲惨な交通事故死亡事故を起こさないため、我が家で、学校でまた地域において交通ルールとマナーの向上について真剣に話し合い、交通安全に対する認識を深め、私達の地域から、村から交通死亡事故を絶滅させることを固く誓い、

全県一、いや全国一「交通安全の村」

「住みよい、人情味豊かな村」

を目指し、地域住民一致協力して全力を尽くすことを宣言する。

平成3年1月24日

- |     |         |         |
|-----|---------|---------|
| 恩納村 | 安富祖区    | 安富祖青年会  |
|     | 名嘉真区    | 名嘉真青年会  |
|     | 喜瀬武原区   | 喜瀬武原青年会 |
|     | 安富祖中学校  |         |
|     | 喜瀬武原中学校 |         |



村立安富祖保育所(松崎加代子主任)では、一月十日、村内にある谷茶の丘老人ホーム(長嶺栄所長、定

## 老人ホーム慰問

### 安富祖保育所



小さなカルメンの踊りを披露するりす組さん

員百人)を慰問しました。当日は、ぞう組(十六名、宜野座真知子保育)りす組(十六名、金城里美保育)が、おじいちゃんのおとし、いい正月、花ぬかじまやの歌やウインスペクター、小さなカルメンの踊りや空手を舞台いっぱい演技、会場内のおじいちゃん、おばあちゃんから大きな拍手が送られました。また、古着をリサイクル利用して園児の父母から寄せられた「おむつ」がホー



「車に乗っている限り、死と直面して生活している私たちが今一度事故を起こさないように死について考えよう」と青年を代表して、意見を述べる伊佐川盛作さん



教育委員に任命された仲嶺氏

二月十八日に行われた平成三年第二回恩納村議会(臨時会)において、人事案件一件が同意されました。教育委員は、前任者の大城勝泰氏が昨年六月に辞任され、その間教育委員一人が欠員となっていました。今回教育委員会の委員に仲嶺哲夫氏(字名嘉真二五三番地)が任命されました。

# 仲嶺氏教育委員に決まる

## 生命の貴さ考えよう

### 三区民交通事故防止総決起大会

二度と悲惨な交通事故を起こしてはならない、と名嘉真、喜瀬武原、安富祖区の合同「交通事故防止三区民総決起大会」(名嘉真、喜瀬武原、安富祖の三区、安富祖、喜瀬武原両中学校主催)が一月二十四日、安富祖小学校体育館において、約二百人が参加して開かれました。



石川署管内における事故の現状について説明する平敷交通課長

催あいさつに続いて、新垣佳宏石川署長は、「スピード、スリルの誘惑に負けない健全な心、他人に迷惑をかけない思いやりの心を家庭、職場、地域、学校等で育ててほしい。」と幼児期からの安全思想の学習を求めました。



その後、中高生、青年、催あいさつに続いて、新垣佳宏石川署長は、「スピード、スリルの誘惑に負けない健全な心、他人に迷惑をかけない思いやりの心を家庭、職場、地域、学校等で育ててほしい。」と幼児期からの安全思想の学習を求めました。また、南風原秀人君(喜瀬武原中三年)もいとこの事故死を挙げて、「残された人たちの悲しみを思っしてほしい。早過ぎる死は親不孝」と訴え、最後に大会宣言文を採択し、大会を閉じました。

婦人会代表七人が意見発表、当山正義君(安富祖中三年)は、同級生の事故のショックを述べ、「最高速度百六十もある車は悪い好奇心を生む。制限速度以下のスピードで走行し、ルールを守ることで事故はなくなる」と指摘しました。



# 南米及びハワイ移住者訪問報告書

平成二年十月十日から二九日までの二〇日間南米四ヶ国（ブラジル、アルゼンチン、ボリビア、ペルー）及びハワイの移住者の激励並びに二世、三世等子弟と本村との今後の交流の在り方等を調査する目的で訪問し懇親を深めましたので、ご報告申し上げます。

## アルゼンチン国

私達訪問団はブラジル訪問を終え次の訪問国「タンゴの国」アルゼンチンへ。十月十六日午前十一時三十分ブエノスアイレスに着、午後から早速上間秀雄氏（山田出身）の案内で市内見学をいたしました。ブエノスアイレス市はアルゼンチンの政治、経済、文化の中心地で南米のパリと呼ばれるだけあって、マロニエの並木路や建築物は洗練されたヨーロッパ文化の香りを感じさせる落ち着いた街です。特にアルゼン



上間秀雄さん宅にて、上間さん家族、正信さん家族らと



沖縄県人会主催の歓迎夕食会（市内レストランにて）

チン人の誇りとする中心街の道路（七月九日大通り）は、緑地帯を含め幅員が百四十四メートルもあり、美しく整備された大都会です。ブエノスアイレス市には、村人が少ないため沖繩県人会の方々が上間さんと一緒に、歓迎夕食会を催してくださいました。席上新垣善市長からアルゼンチンの

現状や、県人会館の建設の状況など説明がありました。県人会館建設については、インフレのため建設が大幅に遅れているが、来年には是非とも完成させたいと話しておられました。翌日は、上間さんの案内で午前中は広大な牧場等を観察、午後は上間さんの長女シルビアさんが勤めの傍ら個人で営む歯科診療所や、

上間さんの弟正信さんの改造中の住宅を見せていただきました。着工してから七年目になるとのこと、完成もまじかな様子でしたが、何分にもインフレのため資金が追いつかず、正信さんは日本本土へ出稼ぎ中で会えなく残念でした。夕方からは上間さん宅で、伯母さんや妹美代子さん、正信さんの留守家族の皆さんと上間さんの奥さん静子

さんが心を込めた手料理でもてなしを受け、楽しく歓談しました。アルゼンチンに沖繩人が移住するようになってから八十年余になります。その間言葉では云い尽くせないご苦労があったことと思いますが、今日では国に溶け込み明るくたくましく生活しておられることに対し、心から敬意を表します。

## ボリビア

十月十八日午前十一時サントクルース空港着、真栄城徳治氏、津嘉山繁氏・修氏兄弟、当山光雄氏、真栄城初子さん・徳康氏親子、佐渡山安栄氏（南恩納出身）、渡久地政徳氏（名嘉真出身）ら大勢の出迎えを受け再会を喜びあいました。

ホテル到着後日程を打合わせ、午後から市内見学へ、移住者で組織する農協（カイコ）や市場を視察しました。サントクルースの市街地の道路は、未整備ながら計画的に道路幅は広く確保されており、主な交差点はロータリー方式で公園にもなっていて、今後次第に整備されるとすばらしい都市になるものと期待が持てます。市場は、品物は豊富にありエネルギーシユに婦人達が働いている様子は、終戦直後の沖繩のマチグワー

を思い出す風景でした。



移住者で組織するコロニヤ沖繩農牧総合協同組合

で、村人が誇る空軍中尉真栄城徳康氏が操縦するセスナに乗せていただき、空から移住地を視察することになりました。

空から見る開拓地は、驚くほど広く山波ははるか遠くに望み、平坦な土地は農地や牧場と未開墾地が入り混じって、第三コロニヤ、第二コロニヤ、第一コロニヤと広がっています。残念

ニヤまでは行けなくて、第二コロニヤで引き返し、徳治さん、修さんの車に分乗して移住地「オキナワ村」に向かいました。

街からコロニヤまでは約百キロの道のりですが、途中からはアスファルトがはげ落ちた凸凹道が延々と続き、右に左にゆられながら三時間がかりでやっと第二コロニヤへ昼過ぎに到着し

## TINTORERIA "UEMA"



上間さんの経営するクリーニング店

ナワ村への重要な道路であり、早く日本政府の援助で整備できないものかと感じました。

第二コロニヤの津嘉山カマドさん(南恩納出身)宅で、村人会長の真栄城徳全氏や佐渡山安光さん夫妻、宮島繁さんと一緒に懇談しながら昼食をいただき、午後は二組に分かれて家庭訪



津嘉山カマドさん宅にて、左から津嘉山昭さん、村長津嘉山カマドさん、カマドさんの三女由紀子さん、佐渡山佐代子さん、津嘉山節子さん

問や農場、公民館などを視察しました。

夜は、第一コロニヤの真栄城徳治さん宅で村人会主催の歓迎会に招待されました。会場には、渡久地利徳さん夫妻、当山朝明さん夫妻など大勢の村人に歓待を受け感激致しました。会は、会長挨拶に続き、徳治さんから入植以来これまでの経

過説明があり、村長から今回の訪問目的と村の現状を報告し、併せてこれまでのご苦労に對し感謝の言葉を申し上げ、遅く迄歓談が続きしました。

席上特に宮島繁さんから、村から贈られた育英資金の運用状況について詳しい説明を受けました。この育英資金は、移住者の子弟の教育のため村が昭和五十四年に、一千万円を贈ったものであります。宮島さんは、当時は有り難く有効に活用して経理状況も良かったがインフレのため、預金価値が下がり、現状では活用するだけの資金もなくなり、誠に申し訳ないと恐縮して報告され、村長もこれを了承しました。

その晩は、徳治さん宅と第二コロニヤの津嘉山さん宅に分かれて宿泊することになりました。第二コロニヤは車で三十分、途中人家の灯りはまばらで、その間隔は約三キロあるとのことでした。最近では農場管理



入植以来の経過説明をする真栄城徳治さん、写真左、右端は村人会長の真栄城徳全さん

も車を使用するため、住宅も集落化する傾向にあるとのことでした。翌十月二十日午前中は家庭訪問や渡し場などを視察し、渡久地政徳さん、津嘉山修さんの車でサンタクルースに戻り、翌二十一日次の

訪問国ペルーへ発ちました。ポリビアの移住地は「オキナワ村」と呼ばれ、人口は第一、第二、第三コロニヤ合わせて約千百人、面積は四万七千ヘクタールと言われています。村からも十七世帯入植したが、入植当

時は飲み水が悪く熱病が流行し、また、水害や蚊などの衛生害虫に悩まされ、居住地を転々と移りやっと現在地に落ち着いたようです。

その間ブラジルやアルゼンチンへ再移住したり、或いは沖繩へ引き上げた方々や不幸にして現地で亡くなられた方々もおられる中、



村長、奥様方と語る、左から宮島繁氏の妻光さん、渡久地利徳氏の妻文さん、真栄城治氏の妻イーダさん、真栄城治氏の妻文子さん、真栄城徳全氏の妻初子さん



渡久地利徳さん宅にて、右から津嘉山修さん、利徳さんの長男、政徳さん、利徳さん、文さん

幾多の困難を乗り越え、現在分家を含めて十四世帯が頑張っておられます。

コロニヤでの農業は、広大で肥沃な土地でブルドーザーや大型コンバインを用いる大規模農業であり、現地人労働者を雇う(日当三ドル)ので経営者一人おれ

とでした。作物は種子用大豆年二回、小麦が主で安定しており、牧畜と合わせた複合経営で今後は益々有望であると、自信をもって語っておられました。

ポリビヤも、かつてはインフレに悩まされたことがありますが、ここ四・五年

ち着いています。出稼ぎに出る差し迫った事情はないが、日本への出稼ぎを希望する者も多いと聞きました。家業の農業も経営者一人おれば充分やっていけるので、出稼ぎを今後の規模拡大の資金稼ぎや研修、勉強と位置付けて送り出しているようです。昭和二十九年から琉球政府の計画移民として移住した方々は、移住当初は大変な苦勞があったと伺いましたが、今日では教育熱心で勤勉よく働く県人は、地元の人々にも信頼され、この国の将来の発展に大きな貢献をされることと確信いたしました。

村長

比嘉茂政

保健衛生課長

田幸正毅

建設課係長

外間毅

総務課主事

# 悪い鬼を退治しろ!

## 恩納幼稚園豆まき大会

♪鬼は外／福は内／パッパッ  
 パッパッ豆をまく……♪  
 村立恩納幼稚園(伊野波  
 盛博園長、比嘉マサ子一組  
 担任、大浦淳子二組担任、  
 園児447名)において、



手作りのお面で記念写真!

二月二日、豆まき大会が行われました。「暦の上では、寒の最終日のこと。節分とは、立春、立夏、立秋、立冬期の節目の前夜祭のことでしたが、大寒の末日に固定し、各社寺では、人集めに豆まきをする風習が流行するようになりまし。古くは、中国の唐時代に伝来したもので、室町時代に明の風習が伝えられたものだとされています。」と大浦担任が節分の由来を説明しました。

心の中の悪い鬼を追い出すために「いじわる鬼、泣き虫鬼、おこりんぼ鬼などみんなまとめて鬼退治!」



「心の中の悪い鬼を退治するぞ」と豆をまく淳子先生と、まかれた豆を拾う園児たち

各自で作った鬼の面を頭に「鬼は外、福は……」と大きな声で歌いあげた後、グランドに出て、福の面をした各担任が「いじわる鬼は出て行け!泣き虫鬼は……」と豆をまき始めると、冷たい北風の中、園児たちは「きゃーきゃー」声をあげながら元氣よく駆けまわっていました。



このお米ほんとうにおもちになるかなさあつてみるぞ!

# かけ声元氣よくもちつき大会

♪もちつきべったんこ♪  
 一月十一日  
 山田保育所  
 (上間明主任、  
 園児四十八名  
 園内庭においで、初のもちつき大会が行われました。

大きなお鍋に米を蒸し、石うすに移し、キネを振り上げ「ヨイショ!コラショ!」とかけ声も元氣よく、見る



つきたてのおもちにきなこをつけてほっぺもおちそうなくらい最高の味だよ!

見るうちにネバリをまし、「モチ」が出来上がる光景を初めて見る園児たちは、不思議そうに目をシロクロさせていました。

当日の昼食には、自分で作りあげたお餅を舌づつみ食欲旺盛ぶりを見せていました。

もちつき大会は、九日、安富祖保育所(松崎加代子主任、園児五十三名)、十日、恩納保育所(根保幸子主任、園児五十四名)においてもそれぞれ行われました。



# 天高く舞いあがればくらの夢

## 山田小中学校凧揚げ大会



高くとんでくれよ!ほくの凧、わたしの夢!!

ドにおいて、第一回凧揚げ大会が開かれ、全校生徒が手作りの凧揚げに挑戦しました。

凧は、児童生徒が三週間前から週一回のゆりの時間を利用して作ったもので、小学生の凧には人気アニメのちびまる子ちゃんや花などの絵が描かれたものが多くみられました。父母が作ったという人間ほどの大きさの大凧は、全校生徒の注目を集めたが、なかなか揚がらずに子どもたちは大爆笑。

子どもたちの手作りのたこは、天高く揚がるものは少なかったが、なんとか凧を揚げようとする生徒も一生懸命でした。

こんな大きな凧はたしてとぶのかしら?!



# 納めよう

## 税の二文字 社会の輪

納税について、ご協力をいただき大変ありがとうございます。毎年三月三十一日は、村の会計年度の終わる日に当ります。まだ、村税を滞納している方は早めに納めましょう。

# 確定申告期間

所得 税 → 2月16日(土)～3月15日(金)  
 消費 税 → 1月1日(火)～4月1日(月)  
 (個人事業者)



申告と納税は正しくお早めに

